

# 兵庫県立大学 学生生活実態調査



## 調査結果概要

平成 18 年 12 月

### 調査の概要

兵庫県立大学は、それぞれに輝かしい歴史と伝統をもつ神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学の三つの県立大学を母体とし、新たに大学院応用情報科学研究科などを加えて平成 16 年 4 月に発足した総合大学で、6 つの学部と 8 つの大学院研究科、および 4 つの附置研究所や各種の付属センターなどからなっている。

この調査は、在学する学生の生活環境や学習環境等の現状を把握することにより、今後の修学支援および学生生活支援等を検討するための基礎資料とするものである。今回の調査は発足 2 年目の平成 17 年 11 月から 12 月にかけて行ったため、調査対象は学部および大学院ともに 1 回生と 2 回生のみであった。なお調査方法は、無記名のアンケートによるものである。

### 【回答数】

対象学生 3,430 人に対し、有効回答数は 1,872 人、回答率は 54.6% であった。学部学生、大学院学生の別でみると、学部学生は対象学生 2,646 人に対し、有効回答数 1,374 人、回答率は 51.9%、大学院学生は対象学生 784 人に対し、有効回答数 498 人、回答率は 63.5% であった。

### 調査項目

- 第 1 章 家計に関する調査
- 第 2 章 奨学金に関する調査
- 第 3 章 アルバイトに関する調査
- 第 4 章 住居・通学に関する調査
- 第 5 章 生活面に関する調査
- 第 6 章 健康、悩みに関する調査
- 第 7 章 ハラスメントに関する調査
- 第 8 章 授業・学習に関する調査
- 第 9 章 課外活動に関する調査
- 第 10 章 ボランティアに関する調査
- 第 11 章 施設等に関する調査
- 第 12 章 入学時に関する調査
- 第 13 章 就職に関する調査
- 第 14 章 自由意見

### 【第 1 章 家計に関する調査】

学生の家計について調査した結果である。

主たる家計支持者については、学部学生の 97%、大学院学生の 86% が「父親」または「母親」であった。一方、看護学部及び大学院では、主たる家計支持者の本人割合も比較的高かった。

1 ヶ月当たりの平均収入は、学部 78,300 円、大学院 100,100 円で、大学院学生が高くなっていた。学部学生の収入内訳では、「アルバイト収入」が最も高く（47%）、次いで家族等からの「仕送り・お小遣い」（33%）であったのに比べ、大学院学生は「日本学生支援機構奨学金」が最も高く（37%）、次いで家族等からの「仕送り・お小遣い」（33%）であった。家族等の経済的支援は学部学生、大学院学生とも 1/3 で同じであった。

1 ヶ月当たりの平均支出は、学部 61,200 円、大学院 79,700 円で、大学院学生が高くなっていた。学部および大学院の学生の支出の内訳をみると、

両方とも上位に「食費」、「教養・娯楽費」が入っているが、学部学生では「衣料費」が、大学院学生では「住居費」が多いのが特徴であった。

平均収入・支出の差額では、学部、大学院ともに 2 万円程度収入が支出を上回っていたが、これは授業料の支払いあるいは貯蓄等に充てられていることが推測できる。

また、消費者金融を利用したことのある学生の割合については、学部 7%、大学院が 5% であった。大学としては、学生が悪質な消費者金融機関等とのトラブルに巻き込まれることがないように、今後とも引き続き注意を喚起していく必要がある。

Q10 あなたの 1 ヶ月当たりの平均収入額は（千円単位で）

- 1) 仕送り・お小遣い 2) 日本学生支援機構奨学金 3) その他奨学金 4) アルバイト収入
- 5) その他収入 6) 1 ヶ月当たりの平均収入額合計

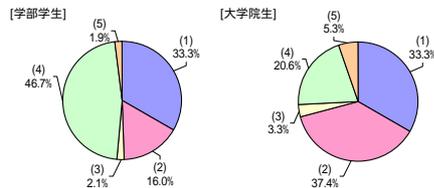
学部学生

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
回答数	818人	391人	64人	961人	91人	1331人
対象者	1374人					
回答率	59.5%	28.5%	4.7%	69.9%	6.6%	96.9%
平均	37.8千円	55.1千円	38.6千円	49.4千円	18.7千円	78.3千円

大学院学生

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
回答数	240人	226人	26人	229人	41人	468人
対象者	498人					
回答率	48.2%	45.4%	5.2%	46.0%	8.2%	94.0%
平均	52.6千円	88.7千円	63.0千円	34.7千円	111.7千円	100.1千円

学生毎の項目別ウエイト



Q11 あなたが支出している 1 ヶ月当たりの平均支出額は（千円単位で）

- 1) 衣料費 2) 食費 3) 住居費 4) 勉学費(授業料除く) 5) 通学費 6) 教養・娯楽費 7) 雑費
- 8) 1 ヶ月当たりの平均支出額合計

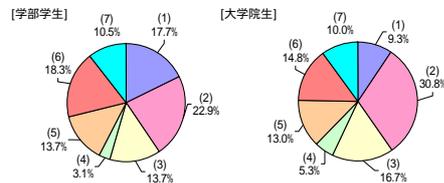
学部学生

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
回答数	1057人	1136人	427人	498人	668人	1094人	967人	1314人
対象者	1374人							
回答率	76.9%	82.7%	31.1%	36.2%	48.6%	79.6%	70.4%	95.6%
平均	12.0千円	16.2千円	40.7千円	4.9千円	13.3千円	11.8千円	7.9千円	61.2千円

大学院学生

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
回答数	342人	438人	253人	244人	272人	400人	354人	469人
対象者	498人							
回答率	68.7%	88.0%	50.8%	49.0%	54.6%	80.3%	71.1%	94.2%
平均	8.7千円	24.3千円	33.8千円	9.1千円	14.7千円	13.0千円	10.8千円	79.7千円

学生毎の項目別ウエイト



### 【第 2 章 奨学金に関する調査】

学生に給付される奨学金について調査した結果である。

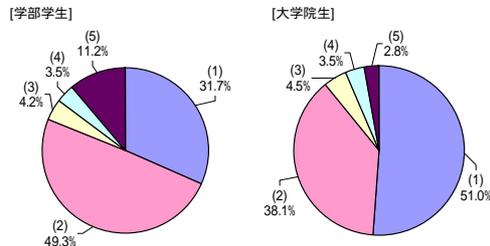
本学の学生の奨学金受給の割合は、学部 36%、大学院 51% であり、大学院が学部を大幅に上回っていた。これは、学生の収入額の調査結果とも合致するものであった。

奨学金を申請しなかった理由についてみると、大学院で「貸与なので申請しなかった」が 42% と最も高く、一見、大学院学生が収入面で余裕があるようにも思えるが、家計に関する調査の結果から、大学院学生の収入源で奨

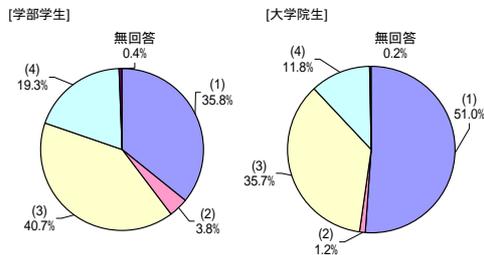
学金の割合が最も高く、支出についても生活を切りつめている様子が窺えることから、これはむしろ将来にわたる多額の返済を懸念しての結果ではないかと考えられる。

奨学金の主な支出先については、学部、大学院ともに「授業料」と「生活費」が最も高い割合を占めていたが、学部では、その他（「交通費」、「貯金」、「使う機会のためにおいてある」等）と回答した者も1割程度いた。

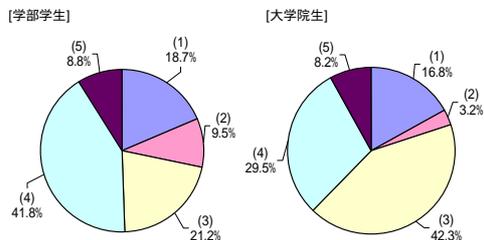
Q 奨学金の主な支出先は(1つだけ回答して下さい)  
1) 生活費 2) 授業料 3) 勉強費(授業料以外) 4) 小遣い 5) その他



Q 奨学金を受けていますか  
1) 受けている 2) 申請したが受けられなかった 3) 申請していない 4) 必要がない



Q 奨学金を申請しない理由は何ですか  
1) 手続きが煩雑だから 2) 掲示等に気が付かなかった 3) 貸与なので申請しなかった 4) 申請の資格がない(と思う)から 5) その他



### [第3章 アルバイトに関する調査]

学生のアルバイトに対する「意識」とアルバイトに従事している「現状」について調査した結果である。

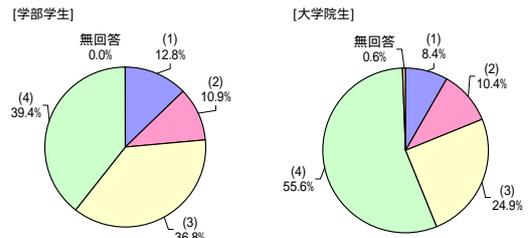
アルバイトの経験については、学部 87%、大学院 92%と、長期・短期を含めてほとんどの学生が経験していた。

その種類については、学部では「サービス業」「販売作業」が多く、次いで「家庭教師」「塾・予備校の講師」であった。一方、大学院では「家庭教師」が最も多く、「サービス業」「販売作業」も次いで多かった。

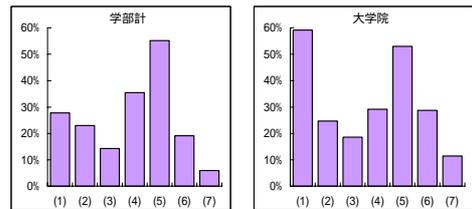
アルバイトをする理由については、学部学生うち、84%が「小遣い」と回答しており、次いで「社会経験のため」(51%)、「生活の資金として」(47%)であった。同様に大学院学生も71%が「小遣い」と回答しており、次いで「生活の資金として」(64%)、「社会経験のため」(43%)であった。

一方、アルバイトが、「(勉強に)多少は支障がある」「授業の出席率に影響した」「成績に影響した」と回答した学生が半数いたが、「アルバイトに割く時間が週平均10時間以上」の学部学生が50%を超えていたこと、さらに「20時間以上」の学部学生が25%を越えていたことを考えると、アルバイトに割く時間が長すぎると考えられる。これは「授業・学習に関する調査」での「1日の平均自習時間が30分未満」の割合(学部平均約50%)とも見合う結果である。

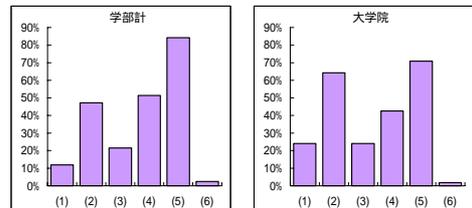
Q アルバイトをしたことがありますか  
1) したことがない 2) 短期アルバイトのみしたことがある 3) 長期アルバイトのみしたことがある 4) 短期・長期アルバイトともにしたことがある



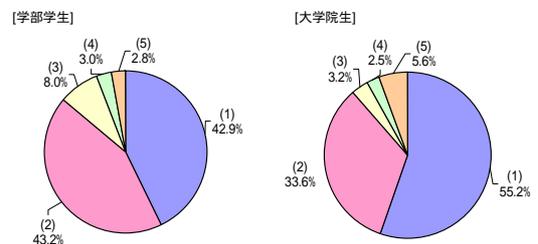
Q アルバイトの職種は何ですか(複数回答可)  
1) 家庭教師 2) 塾・予備校等講師 3) 事務作業 4) 販売作業 5) サービス業 6) 現場作業・警備員等 7) その他



Q アルバイトをする理由は何ですか(複数回答可)  
1) 学費等修学の資金として 2) 生活の資金として 3) 家計の経済的負担の軽減のため 4) 社会経験のため 5) 小遣い 6) その他



Q アルバイトは勉学の支障になっていませんか  
1) ほとんど支障はない 2) 多少は支障がある 3) 授業の出席率に影響した 4) 成績に影響した 5) 勉学に役立った



### [第4章 住居・通学に関する調査]

学生の「住居」と「通学」について調査した結果である。

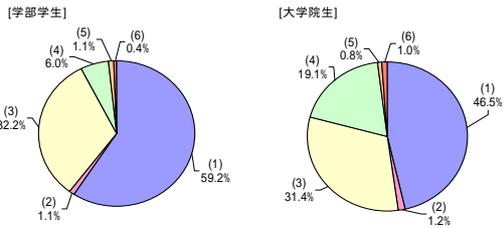
自宅から通学している学生数の割合は、学部 59%、大学院 47%であった。これは、本学が地元根ざした大学であることの現れでもあるが、大学の立地条件にも影響を受けていることも考えられる。

自宅通学者以外の学生の住居家賃については、大学院学生の約半数が4万円以下であったのに対し、学部学生の約6割が「4万円から6万円」であった。大学院学生の平均月額支出における住居費が食費に次いで高かったことと併せて考えると、大学院学生のほうが学部学生に比べ経済的には苦しいと思われる。

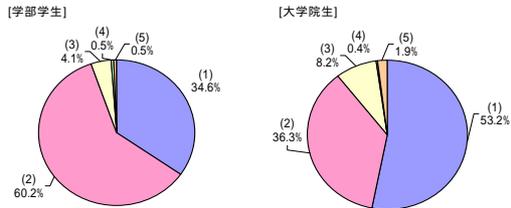
通学手段としては、自転車を利用する学生は学部 41%、大学院 27%、バイクや自動車を利用する学生は学部 33%、大学院 49%であった。

通学時間については、片道1時間以上かけている学生は学部全体で約4割であったが、90分以上かけて通学する学生が多い学部は工学部と経済学部であった。片道2時間以上かけている学生も少なからず存在し、勉学への影響が気になるところである。

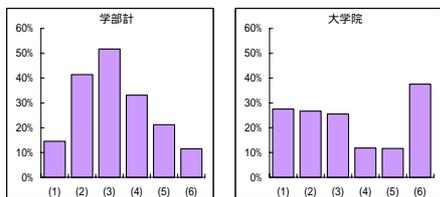
Q あなたの住居の形態は  
1) 自宅通学 2) 兄弟・親戚・知人宅 3) アパート・マンション 4) 学生寮 5 下宿(食事付き) 6) その他



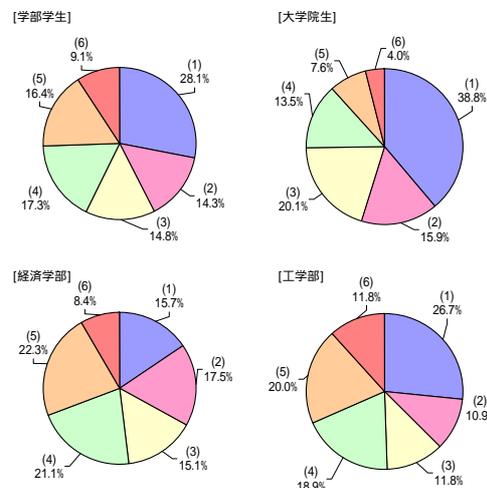
Q 1ヶ月の家賃(自宅外通学者のみ)  
1) 4万円未満 2) 4万円～6万円未満 3) 6万円～8万円未満 4) 8万円～10万円未満 5) 10万円以上



Q 主たる通学手段は何ですか(複数回答可)  
1) 徒歩のみ 2) 自転車 3) 電車 4) バス 5) バイク 6) 自動車



Q キャンパスまでの所要時間は片道のくらいですか  
1) 15分未満 2) 15分～30分未満 3) 30分～60分未満 4) 60分～90分未満 5) 90分～120分未満 6) 120分以上



## [第5章 生活面に関する調査]

大学の学業以外の生活面について調査した結果である。

普通運転免許を所持する学生は、学部 61%、大学院 94%であった。これを学部別に見ると、理学部の学生は 81%と他学部を大きく上回る結果となっており、2回生に限っては 91%と、ほぼ大学院学生並の割合となっていた。これは、理学部学生が2年次より所属する播磨科学公園都市キャンパスの地域性に起因するものと思われる。

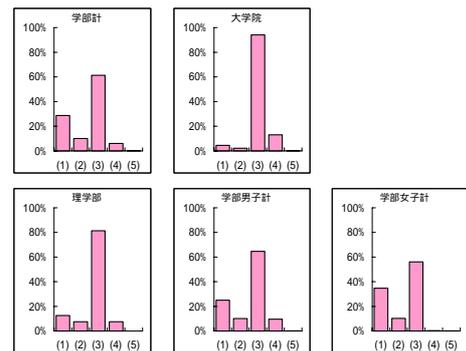
普通運転免許やバイク等の免許を所持する学生の割合が高いことについては、大学としても従前から認識しており、これまでも地域住民への配慮や、学生への交通安全指導等を行ってきた。しかしながら、調査時点で交通事故や飲酒運転及び同乗の経験のある学生がいたことから、本学では直ちに学生

の注意を喚起する文書を公示し、各学部・研究科においても、これまで以上に飲酒運転や無謀運転による重大事故の発生を予防するための学生指導を行っている。

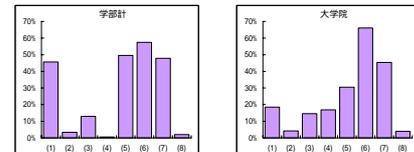
学業以外のことで、学生が特に力を入れていることについては、クラブ活動・趣味娯楽・友人との交流など遊びを主とした活動が大半を占めており、一方で、ボランティア活動の割合が低かった。

社会に関する情報源については、テレビ、ラジオが最も高く、パソコン、新聞がこれに続く。社会問題の関心事は、学部では全学的には「犯罪」が最も高かったが、学部によってかなり相違があり、経済学部、経営学部および大学院では「経済」に、看護学部では「医療」に最も関心を寄せていた。これは、専攻する分野に関連する社会問題には1・2回生でも関心が高いことを示している。

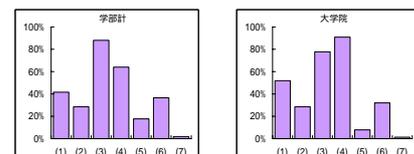
Q 自動車・バイクの免許を持っていますか  
1) 持っていない 2) 原付免許のみ 3) 普通運転免許 4) 自動二輪免許 5) その他



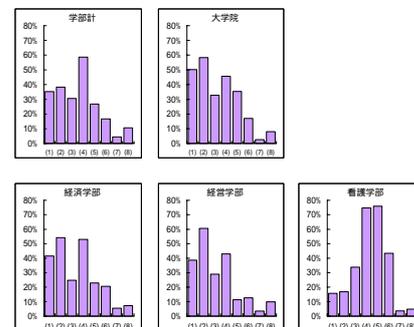
Q 大学の学業以外で特に力を入れていることは何ですか(複数回答可)  
1) クラブ・サークル活動等 2) ボランティア活動 3) 資格取得 4) 就職活動 5) アルバイト 6) 趣味・娯楽 7) 友人との交流 8) その他



Q 社会に関する情報は主にどこから収集しますか(複数回答可)  
1) 新聞 2) 雑誌 3) テレビ・ラジオ 4) パソコン 5) 携帯電話 6) 友人 7) その他



Q 現在関心の高い社会問題は(複数回答可)  
1) 政治 2) 経済 3) 教育 4) 犯罪 5) 医療 6) 福祉 7) その他 8) 特になし



## [第6章 健康、悩みに関する調査]

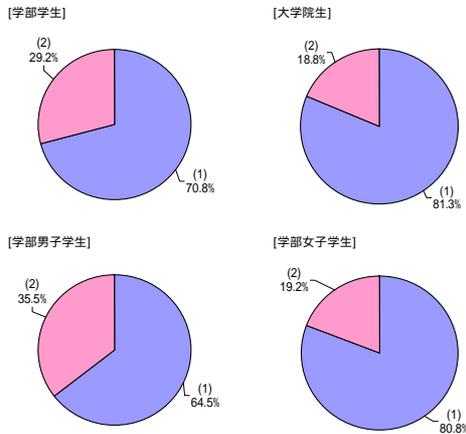
学生の健康、悩みについて調査した結果である。

健康上心がけていることについては、「食事」「休養」が高く、次いで「ストレス解消」であった。大学には学生達が相談できる保健室やカウンセリング室があるが、その存在は学部大学院共に概ね知られており、特に女子学生

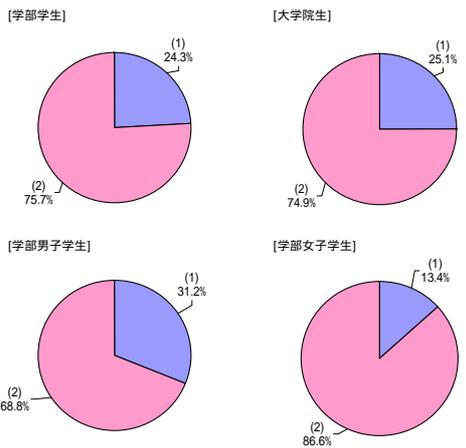
の認知度は高かった。保健師等看護職が保健室において学生の心身の健康状態の調査を行い、日々の相談をきめ細やかに行っていることも、このサービスの周知度が高い理由であろう。

「飲酒を強要された経験」については、全体で約 25%、学部男子では約 3 割が「経験がある」と回答した。「どのような飲み会で強要されたか」を聞くと、「クラブ・サークル」と答えた学生が圧倒的に多く、大学院学生では、その他に「友人」や「ゼミ・講座」の比率も高かった。

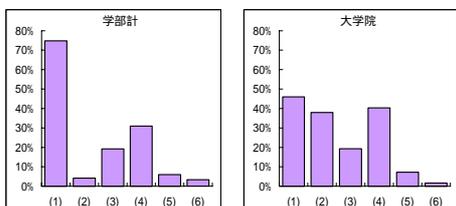
Q 悩みや不安を保健室やカウンセリング室で相談できることを知っていますか  
1) 知っている 2) 知らない



Q 飲酒を強要されたことがありますか  
1) ある 2) ない



Q どのような飲み会で飲酒を強要されましたか(複数回答可)  
1) クラブ・サークル活動 2) ゼミ・講座 3) アルバイト先 4) 友人 5) 親・親戚 6) その他



### [第7章 ハラスメントに関する調査]

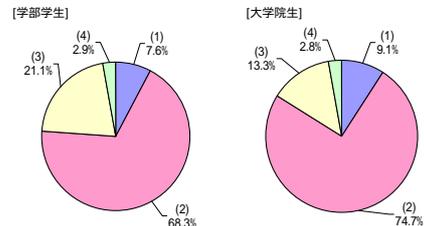
ハラスメントに対する学生の意識、経験等について調査した結果である。ハラスメントについて「詳しく理解している」または「ある程度理解している」と回答した学生は、学部 76%、大学院 84%で、大半の学生が「ハラスメントをある程度理解している」と認識していた。一方、本学のハラスメント対策の基本となる「兵庫県立大学ハラスメント対策に関するガイドライン」を「知らない」と回答した学生は、学部 72%、大学院 73%であり、また、「ハラスメントの相談窓口があること」についても「知らない」と回答した学生は、学部 76%、大学院 69%であった。これは、本学のハラスメント

に対する取り組みが、この時点でまだ学生には十分に浸透していなかったことを示す。ただ、学部別に見ると、看護学部では、ガイドラインの存在を「知っている」あるいは「実際に読んだことのある」学生や「相談窓口があることを知っている」学生の割合が高かった。これは、毎年 4 月に行われる学部の履修ガイダンスの中に、ハラスメントに関することが組み込まれており、さらに実習に出る前のオリエンテーションでもハラスメントについての説明があるなど、学生に周知する機会が多いことが要因と考えられる。

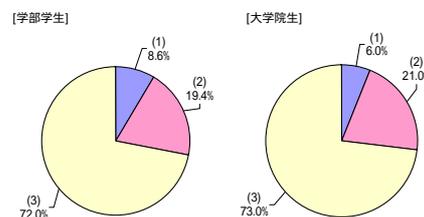
実際にハラスメントを受けたことがあると回答した学生は、学部では、セクシャルハラスメント 5%、アカデミックハラスメント 1%、大学院では、セクシャルハラスメント 3%、アカデミックハラスメント 4%であった。ただ、今回の調査では、これが入学後であったのか、学内であったのか、またはアルバイト先のように学外であったのか等は特定できない。

ハラスメントは、問題が発生しないように予防することが大切であり、そのためには、学生のハラスメントに関する知識や認識をさらに高め、本学で取り組んでいるハラスメント対策を浸透させることが重要である。しかしながら、今回の調査結果から、本学で取り組んでいるハラスメント対策に対する学生の認知度が必ずしも高くなかったことが分かった。

Q ハラスメントとはどういうものか知っていますか  
1) 詳しく理解している 2) ある程度理解している 3) 聞いたことはあるが詳しくは知らない 4) 知らない



Q 兵庫県立大学ハラスメント対策に関するガイドラインを知っていますか  
1) 読んだことがある 2) 知っているが読んだことはない 3) 知らない



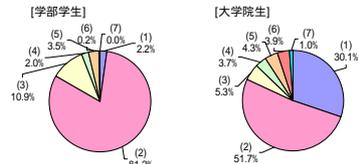
### [第8章 授業・学習に関する調査]

学生の授業および学習について調査した結果である。1 週間の登校日数については、5 日以上と回答した学生が大半であった。また、授業への出席率についても学部学生の約 8 割、大学院学生の約 9 割が「ほぼ 100%」又は「8 ~ 9 割」と回答するなど比較的高いことが分かった。週あたりの授業時間数は、学部学生では 10 ~ 20 時限未満が 58%と最も多く、1 日 2 科目から 4 科目の授業を取っている学生が多かった。20 時限以上を履修している学生が特に多かったのは理学部で、30 時限以上と答えた学生が 15%であった。それに比較して大学院では、授業時間数が少なく、研究やゼミに時間を費やしていることが窺える。

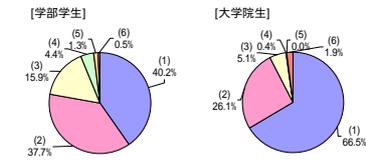
授業の理解度についての回答から、学部学生の約 20%が「あまり理解できない」と回答していた。その理由としては、「勉強意欲や努力が不足している」と自らに原因を求めている回答が最も多かったが、「授業内容が難しすぎる」「教授方法等に問題がある」という回答も次いで多かった。また、授業が理解できない理由の 4 番目は「授業の準備と復習の時間が不足している」であり、1 日の平均自習時間は学部学生では「30 分 ~ 1 時間未満」「30 分未満」「なし」がそれぞれ約 24%であった。一方、大学院では、1 日の平均自習時間が「3 時間以上」と答えた割合が最も高かった。

カリキュラムの満足度では、学部学生の 52%が不満を持っており、その理由で最も高かったものは「履修したい科目が選択できない」であったが、自由意見の中でも「時間割が窮屈である」といった不満が見られた。

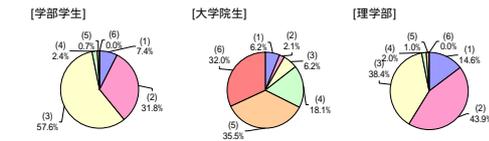
Q 1週間のうち何日登校しますか(課外活動のみによる登校は除く)  
 1) 6日 2) 5日 3) 4日 4) 3日 5) 2日 6) 1日 7) 0日



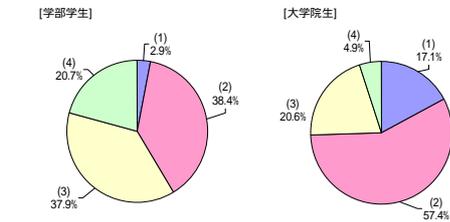
Q 授業の平均的な出席率は  
 1) ほぼ100% 2) 8~9割程度 3) 6~7割程度 4) 4~5割程度 5) 2~3割程度 6) 2割未満



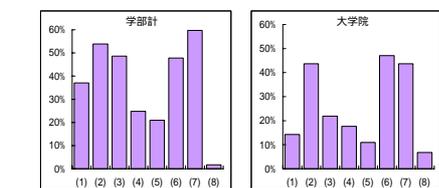
Q 週あたりの授業時間数は(1時限は90分)  
 1) 30時限以上 2) 20~30時限未満 3) 10~20時限未満 4) 5~10時限未満 5) 1~5時限未満 6) なし



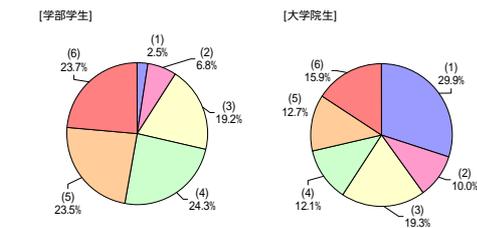
Q 授業の理解度は  
 1) 理解している 2) まあまあ理解している 3) 多少理解している 4) あまり理解できていない



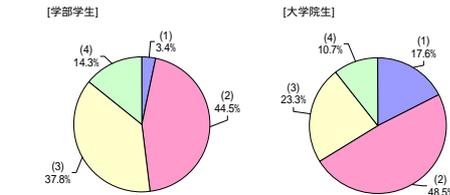
Q 授業が理解できない理由は何ですか(複数回答可)  
 1) 習得しなければならない科目数が多い 2) 授業内容が難しすぎる 3) 教授方法等に問題がある  
 4) 高校での基礎学力が不足している 5) 大学の学習方法についていけない  
 6) 授業の準備と復習の時間が不足している 7) 勉強意欲や努力が不足している 8) その他



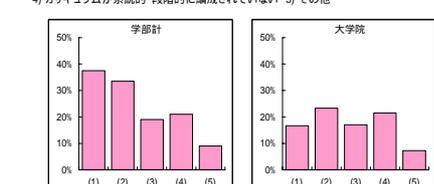
Q 1日の平均自習時間は  
 1) 3時間以上 2) 2時間~3時間未満 3) 1時間~2時間未満 4) 30分~1時間未満 5) 30分未満 6) なし



Q 現在のカリキュラムに満足していますか  
 1) 満足している 2) まあ満足している 3) やや不満である 4) 不満である



Q 現在のカリキュラムに満足できない理由は何ですか(複数回答可)  
 1) 履修したい科目が選択できない 2) 選択科目の種類が少ない 3) 他学部・他学科の授業がとれない  
 4) カリキュラムが系統的・段階的に編成されていない 5) その他



## [第9章 課外活動に関する調査]

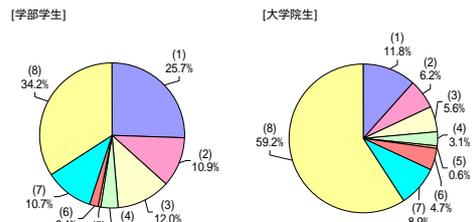
課外活動に対する学生の参加状況や意識等について調査した結果である。  
 クラブ・サークル活動等の課外活動に参加する学生の割合は、学部 55%、  
 大学院 32%であった。

一方、クラブ・サークル活動に参加しない主な理由については、学部では  
 「時間的に余裕がない」や「自分に適したクラブ・サークルがない」が高か  
 った。これは、課外活動への参加意思があるにもかかわらず、参加できない、  
 あるいは参加しないという学生が複数いることを示す結果であった。大学院  
 では、当初から不参加の割合が高く、その理由も「時間的に余裕がない」、「興  
 味がない」が高かったが、これは大学院では勉学や研究に重点を置いている  
 からであろう。

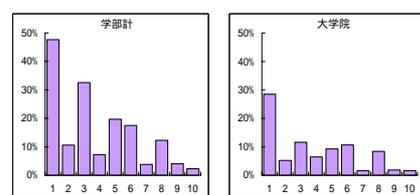
週平均活動時間は、学部では約半数の学生が週5時間以上活動しており、  
 さらに週10時間以上でも約2割いることが分かった。週当たりの授業時間  
 数では、20時間未満の学生が6割いたが、そのことと課外活動に費やす時  
 間とが符合する。

本学は各キャンパスが距離的に離れていることや専門教育等での過密な時  
 間割などのため、課外活動を行づらい環境にあるが、そのような状況でも  
 多くの学生が課外活動に参加しており、学生にとって課外活動が如何に重要  
 であるかが窺える。

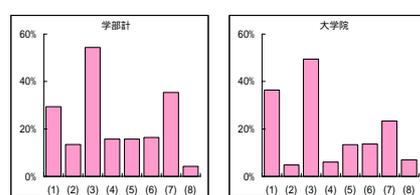
Q クラブ・サークル活動等への参加について  
 1) 体育会系クラブに参加 2) 文化会系クラブに参加 3) 体育会系サークルに参加  
 4) 文化会系サークルに参加 5) 他大学の団体に参加 6) 地域の団体に参加  
 7) 途中から不参加 8) 当初から不参加



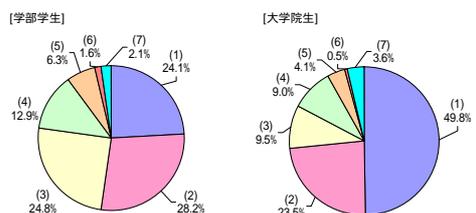
Q クラブ・サークル活動等への参加の動機は(複数回答可)  
 1) 活動内容に興味があった 2) 団体生活に魅力があった 3) 友人を得るため  
 4) 知識・教養を得るため 5) 健康増進のため 6) 技術向上のため 7) 就職に有利と考える  
 8) レクリエーションとして 9) 強く勧誘されたため 10) その他



Q クラブ・サークル活動等へ参加しない理由は(複数回答可)  
 1) 興味がない 2) 団体生活が苦痛 3) 時間的に余裕がない 4) 体力的に余裕がない  
 5) 経済的に余裕がない 6) 勉学に支障が生じる 7) 自分に適したクラブ・サークルがない  
 8) その他



Q 授業期間中(土日祝日を含む)における週平均活動時間は  
 1) 2時間未満 2) 2~5時間未満 3) 5~10時間未満 4) 10~15時間未満 5) 15~20時間未満  
 6) 20~25時間未満 7) 25時間以上



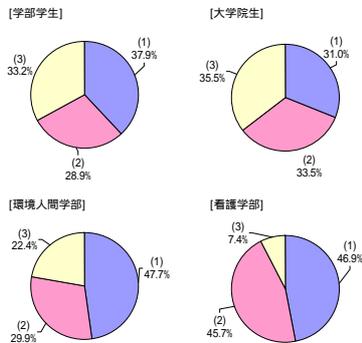
[第10章 ボランティアに関する調査]

学生のボランティア経験について調査した結果である。

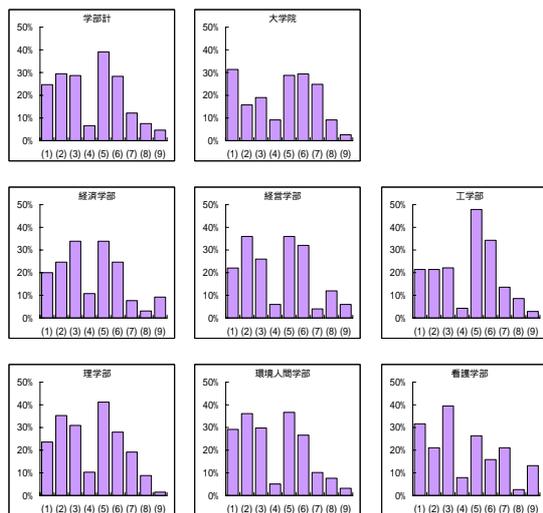
ボランティア活動経験については、学部で38%、大学院で31%が「経験がある」と回答しており、関心のある者をあわせると約7割もいることがわかった。特に、環境人間学部や看護学部等の人とかかわりの深い学部では経験者が多かった。活動内容については、大学院では「障害者支援」、「地域振興」、「環境保護」と回答した学生が多く、学部では「環境保護」が多かった。また、学部によって特徴があり、「障害者支援」での活動経験が多かったのは環境人間学部と看護学部であり、「幼児・児童支援」は経済学部、理学部、環境人間学部、看護学部で、「高齢者支援」は経営学部、理学部、環境人間学部、看護学部で、「地域振興」は経済学部、経営学部でそれぞれ多かった。

ただ、逆に「興味はあるが機会がなかった」あるいは「興味がない」と回答した学生がそれぞれ約3割いたこと、活動している学生でも大半が年に3日以内であること等から、現状では、ボランティア活動を継続的に行うような環境が十分に整っていないということも考えられる。

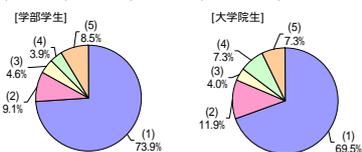
Q ボランティア活動の経験について  
1) 経験がある 2) 興味はあるが機会がなかった 3) 興味がない



Q 主にどのような分野での活動ですか(複数回答可)  
1) 障害者支援 2) 幼児・児童支援 3) 高齢者支援 4) 外国人支援 5) 環境保護 6) 地域振興 7) 災害復旧支援 8) スポーツ指導 9) その他



Q 年間の活動日数はどの程度ですか  
1) 3日以内 2) 4日~7日 3) 8日~14日 4) 15日~30日 5) 31日以上



[第11章 施設等に関する調査]

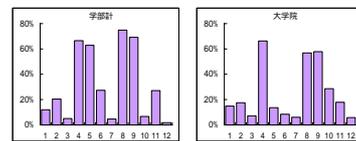
大学の施設等に関し、学生の利用状況や要望等について調査した結果である。

学生が授業以外で利用している主な施設・場所は、「食堂」「購買部」「図書館」および「情報処理教育施設」で、学生がさらに充実してほしい施設としては、「食堂」「購買部」「図書館」などがあげられていた。また、大学院学生の中には、「学生用の駐車場」を挙げる者も多かった。

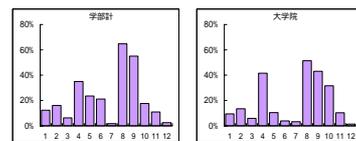
7~8割の学生が利用していると回答している図書館の開館時間については、現状でほぼ満足している学生が学部では6割、大学院では5割余であった。学部では約27%の学生が1週間に2時間以上図書館を利用しており、特に理学部において長時間利用している学生が多かった。

図書館の改善すべき点としては、「図書・雑誌の充実」が最も高く、ついで「開館時間の延長」で、この傾向はほとんどのキャンパスでみられた。また、自由意見の記述からも、全てのキャンパスの学生が、開館時間や図書・雑誌の現状についての不満を持っていることが分かった。特に、理学部の2/3の学生が、平日の開館時間の延長か土日祝日の開館を求めているが、これは理学部の立地環境や学生寮が隣接していることも理由に挙げられる。

Q 授業時間以外に主として利用している施設・場所について(複数回答可)  
1) グラウンド 2) 体育館 3) テニスコート 4) 図書館 5) 情報処理教育施設 6) 部室 7) 保健室 8) 食堂 9) 購買部 10) 学生用駐車場 11) 駐輪場 12) その他



Q 設備も充実してほしい既存施設は(複数回答可)  
1) グラウンド 2) 体育館 3) テニスコート 4) 図書館 5) 情報処理教育施設 6) 部室 7) 保健室 8) 食堂 9) 購買部 10) 学生用駐車場 11) 駐輪場 12) その他



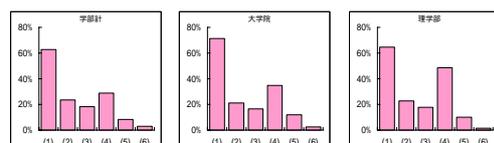
Q 1週間当たりの図書館の利用時間は  
1) ほとんど利用しない 2) 1時間未満 3) 1~2時間未満 4) 2~5時間未満 5) 5~10時間未満 6) 10~15時間未満 7) 15~20時間未満 8) 20時間以上



Q 図書館の開館時間についてどう思いますか  
1) 現状でほぼ満足している 2) 平日の開館時間を延長してほしい 3) 土日祝日の開館時間を延長してほしい 4) その他



Q 図書館の改善すべき点は(複数回答可)  
1) 図書・雑誌の充実 2) 情報検索機器の充実 3) 閲覧環境の改善 4) 開館時間の延長 5) 貸出システム 6) その他



## [第12章 入試に関する調査]

本学に入学した学生に対し、入試に関する認識等について調査した結果である。

入学の動機については、学部では「私学に比べて授業料が安いから」が最も高く、大学院では「専攻して勉強したい分野があるから」が大半であった。学部で多いのは、「専攻して勉強したい分野の学科があるから」と「難易度が適当であったから」であるが、「地元の大学だから」も次いで多い結果であった。特に学部による顕著な相違は、理学部では「希望した大学に入学できなかったから」が最も高いこと、看護学部では勉強したい分野が一致したことが他の条件を越えて高いこと、等である。

「入学した学部・学科は希望通り」であったかについては、理学部以外の他の学部はほぼ類似して8～9割の学生が希望通りと答えている。

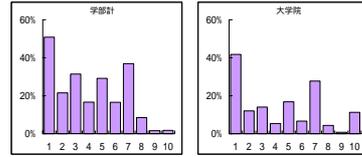
受験生が「本学を受験する際の情報源」については、「高校教員や進路指導部」と答えた学生が最も多かった。その他の情報源については「大学案内等資料」や「受験情報雑誌等」をあげたものが多いが、学部によって多少異なっている。ただ、注目すべきは、受験生は高校や予備校から与えられる情報だけではなく、インターネットをはじめとする様々な手段により、自らも情報収集を行っているということである。

誰が主体となって入学先を決めるかについてはどの学部についても大きな違いはなく、ほとんどが本人であった。また、「本学への受験・入学を決定する際にだれからのアドバイスを重視したか」については、教員、親、予備校・塾で大部分を占めた。

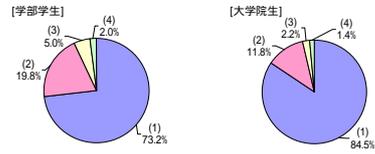
「受験生の立場からの本学入試の改善」のうち、入試の日程や入学定員については、「一般選抜の配点を2次試験重視型に傾斜する」が最も多く、これはすべての学部でそうであった。他には、看護学部、工学部、経営学部は前期日程の定員を後期にスライドして欲しいという希望が多い。

「入学後、現在の学部(学科)・研究科に満足しているか」については、学部では6割、大学院では8割の学生が「満足している」「まあ満足している」と答えている。「現在の学部(学科)に満足できない理由」については、「授業の内容やカリキュラム等が自分の考えていたものと違っていったから」が最も高いが、高校以下の教育と大学入学後の教育との接続の問題や、大学での教育が高校以前の授業形態と質的な違いがあるなどの原因がこの背景にあるのではないかと考えられる。

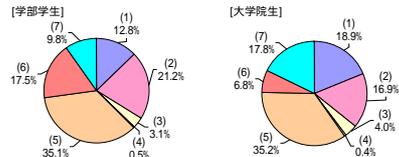
Q 本学を受験するにあたり主にごから情報を入りましたか(複数回答可)  
 1) 高校教員や進路指導部 2) 予備校等 3) 受験情報雑誌等 4) インターネット(本学HP以外)  
 5) 本学ホームページ 6) オープンキャンパス・大学見学 7) 大学案内等資料  
 8) 高校での進路説明会 9) 高校以外での進路説明会 10) その他



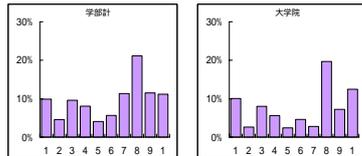
Q 本学への受験・入学は誰が決まりましたか  
 1) 自分の意志 2) 多少親や教員等の意見を考慮した 3) 親や教員等の意見を重視した  
 4) 親や教員等の意志



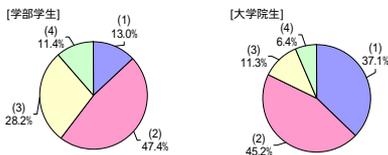
Q 本学への受験・入学を決定するにあたり誰のアドバイスを最も重視しましたか  
 1) 父親 2) 母親 3) 兄弟・姉妹 4) 祖父母 5) 教員 6) 予備校・塾等 7) その他



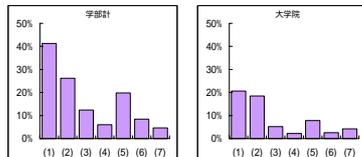
Q 受験生の立場から本学の入試についてどのような改善を望みますか(複数回答可)  
 1) 一般選抜前期日程の定員を後期日程にスライド 2) 一般選抜後期日程の定員を前期日程にスライド  
 3) 一般選抜中期日程の定員拡充 4) 推薦入学の定員の拡充 5) A入試の定員の拡充  
 6) 一般選抜の試験科目数を軽減する 7) 一般選抜の配点をセンター試験重視型に傾斜する  
 8) 一般選抜の配点を2次試験重視型に傾斜する 9) 資格等高校での活動の評価の比重を高める  
 10) その他



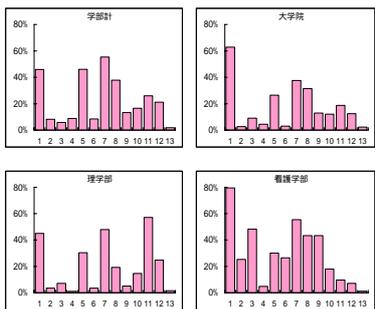
Q 入学後、現在の学部(学科)・研究科に満足していますか  
 1) 満足している 2) まあ満足している 3) 多少不満である 4) 不満である



Q 現在の学部(学科)に満足できない理由は(複数回答可)  
 1) 授業の内容やカリキュラム等が自分の考えていたものと違っていったから  
 2) 教員・設備等が自分の考えていたものと違っていったから  
 3) 周りの学生のレベルに自分がついていけないから 4) 周りの学生のレベルが自分より低すぎるから  
 5) 本当は他大学に入学したかったから 6) 本当は他学部・学科に入学したかったから 7) その他



Q 入学の動機は(複数回答可)  
 1) 専攻して勉強したい分野の学科があるから 2) 教育方針・カリキュラム等が良いから  
 3) 教員・設備等が優れているから 4) 少数教育だから 5) 難易度が適当だったから  
 6) 社会的評価が高いから 7) 私学に比べて授業料が安いから 8) 地元の大学だから  
 9) 将来の就職に有利と考えたから 10) 先生や親等の勧めで  
 11) 希望した大学に入学できなかったから 12) 浪人した(な)かったから 13) その他



Q 入学した学部・学科は希望通りでしたか  
 1) 第1希望として入学した 2) 第1希望ではないがほぼ満足して入学した  
 3) 第1希望ではなく、多少不満はあったが入学した 4) 第1希望ではなく、不本意ではあったが入学した



## [第13章 就職に関する調査]

学生の就職に対する意識等について調査した結果である。

「将来どのような職種に就きたいか」との質問では、大学院学生の多くは「民間企業(技術職)」への就職を希望しているが、「大学等教育・研究職」を希望している学生も多数存在した。一方、学部学生については、看護学部を除く学部において「民間企業(事務職)」と「民間企業(技術職)」を希望する学生が多かったが、学部によって特徴がある。看護学部の学生は、大半が専門職(看護職)を希望しており、環境人間学部は、専門職(建築士等)を選択した学生が最も多かった。また、理学部については、「大学等教育・研究職」が最も多いのが特徴である。このような結果から、学生達は自分ごどのような職種に就きたいかある程度描いて入学していることが窺われる。

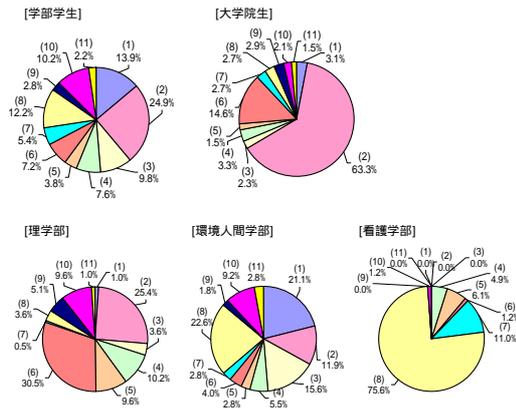
「現在希望する職種についてはいつ頃から考え始めたか」という質問に対し、大学院の学生の多くが「大学入学後」と回答した。また、学部学生については、上述のように自分がどのような職種に就きたいかをある程度描いて入学しているが、とりわけ看護学部では職種に明確な志を持って入学しているのが特徴である。このことは「就職に対する不安内容」についての回答にも現われており、看護学部学生が就職後の自分の能力や人間関係に対する現実的な不安を感じているのに対して、他学部の学生は、就職できるか、あるいは自分にあった職業に就けるかなど、比較的漫然とした不安を持っているようである。

持つ学生が多く見られた。その他、事務室の窓口対応への不満や昼休み時間中の窓口業務に関する要望も多く見られた。

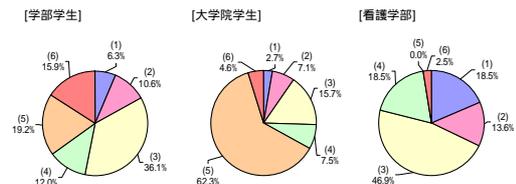
「学生生活全般に関するもの」については、本学キャンパスが複数に分散しており、全学共通教育を受講するキャンパスと専門教育を受講するキャンパスが異なる学部（理学部・環境人間学部・看護学部）があることから、キャンパス間の移動手段として、スクールバスの運行等の充実に望む声が多く見られた。

「教育・研究等に関するもの」については多くが教授方法やカリキュラムに関する要望である。学部や大学院によってその内容は異なるもの、一方的な授業で分かりにくい、時間割が窮屈である、希望通りのコース分けにならない等、教授方法やカリキュラムをめぐる不満が複数寄せられていた。

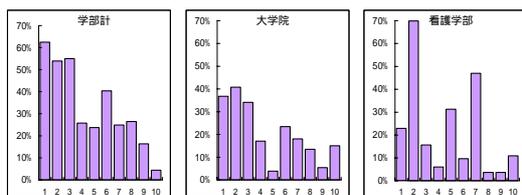
Q 将来どのような職種に就きたいですか(最も希望するものを1つだけ回答して下さい)  
 1) 民間企業(事務職) 2) 民間企業(技術職) 3) 公務員(事務職) 4) 公務員(技術職)  
 5) 教員(大学除く) 6) 大学等教育・研究職 7) 高度専門職(公認会計士、専門看護師等)  
 8) 専門職(看護師、建築士等) 9) 起業家 10) 特になし 11) その他



Q 現在希望する職種についてはいつ頃から考え始めましたか  
 1) 小学校 2) 中学校 3) 高校 4) 大学選択時 5) 大学入学後 6) まだ考えていない



Q 就職に対する不安はありますか(複数回答可)  
 1) 就職ができるか不安である 2) 自分の能力でやれるか不安である  
 3) 自分にあった職業に就けるか不安である  
 4) 今学んでいることを生かした仕事につけるか不安である 5) 資格が取れるか不安である  
 6) 就職活動を上手くできるか不安である 7 就職後に人間関係が上手くやれているか不安である  
 8) 自分の考える程度の収入が得られる仕事に就けるか不安である  
 9) 自分の考える程度の社会的認知度の高い企業に就けるか不安である 10) 特に不安はない



## [第14章 自由意見]

今回、兵庫県立大学において初めて実施した学生生活実態調査により、学部学生および大学院学生の教育・研究環境はもとより福利厚生、健康管理、就職支援、経済的援助、就学相談や課外活動などの学生生活支援に関しても多くの貴重な調査結果が得られた。その中で、自由意見として学生自ら記述したものを内容別に総括すると、以下のような二、三の論点が浮き彫りになった。

まず「施設、環境、体制等に関するもの」として、学生達に不可欠な福利厚生施設である「食堂」「図書館」「駐車場」に関する要望である。食堂については施設面（席数の増設）やメニュー等の改善要望であり、図書館では図書書の充実、開館時間の延長や休日解放などに関する要望である。駐車場の利用に関してはキャンパスの立地条件にも依存するが、西地区を中心に不満を